勿凝学問 263

福田・麻生時代と現政権、どっちが社会保障重視？
ロナルド・ドーア氏がみる日本の政権交代

2009 年 11 月 17 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

昨日は、所沢市議会議員の勉強会――ずいぶん前に、近所だからと軽く引き受けていた。駅まで迎えに来てくれた人と会場の市役所までの会話。

「今日は、どんな政党の方が出席されているんですか」

「すべての政党の議員が全員出席されています」

「あっそう。じゃぁ、ある政党から僕に質問が出たら、他の政党の人に答えてもらうとするか」

「えっ!?･･･」

与えられた演題は、「社会保障と福祉と年金――地方議員が知っておくべきこと」。「でもねぇ」、と講演の冒頭で

> 今から話すことを知らないままに政治家をやってもらっていては困るんですよね。わたくしがこれから話すことを、決して「今初めて知った！」という顔をなさらないでくださいね。是非とも、「そんなことは前々から知っているゾ」という顔を崩さないで聴いていてください･･････。

と伝える。ノリのいい議員は、「分かった分かった、そりゃ当然だ」と言っていた（笑）。

2 時間の講演後、主催者からは、「まんべんなく、全部の政党を叩っ切られていました。どの政党も、もれなく満足され、もれなく青くなって硬直した、実に公平な講演でした」という、お褒めの言葉を頂く。

昨日のオーディエンスは政治家だったので、僕の話を聴いてオーディエンスが盛り上がる箇所が、普通とはちょっと違っていたのがおもしろかった。特に昨日ウケた話のひとつは、次の「言わずもがな３大トピック」――みんな懸命にノートを取られていたので、ここにパワーポイントをアップしておきますね。

いわずもがな3大トピック

- 未納が増えても年金は破綻しない
  - 未納者の無年金を問題視しないのか？
  - 問題視するのは当然
- この国で負担増は不可避
  - 税金の無駄遣いは放置するのか？
  - 放置しないのは当然
- 医療費を増加すべし
  - 医療の配分はそのままで良いのか？
  - 良くないのは当然

46

Keio University
Y Kenjoh

このスライドは、医療経済研究機構で話したときに使ったものでして、その講演録は次です。

> 医療経済研究機構講演録「医療費の将来見通し方法の進化と政策の意思」６頁
> 要するに、あるべき医療介護を求めて改革をすれば費用は増えるんです。ここで「いわずもがな３大トピック」ということをあげていますが、医療費を増加すべしと言うと、「医療費の配分はそのままで良いのか？」と言う人が必ず出てくる。そのままで良いわけがない。だから、国民会議のシミュレーションでは、医療費の配分が大きく変わることになっている。同様に、未納が増えても年金は破綻しないと言えば、未納者の無年金を問題視しないのかという人が出てくる。さらに、この国で負担増は不可避と言えば、税金の無駄遣いは放置するのか？と言われる。そうした、いわずもがなの、ためにする議論は、やめましょうねとも、同時に言っていなければならないのが、この国の現状の辛いところなんですけどね。

僕がここにあげた「いわずもがな３大トピック」というような問題に、政治家のみなさんは、いつも苦しまれているんでしょうね――ほんっと、頭痛いですよね（笑）。

さてさて、今日はここからが本題。

昨晩、講演を終えた後の、いろんな政党の議員さん達（共産党はいなかったなぁ）との懇親会を終えて帰宅すると、名古屋在住の二木立先生から、『中日新聞』にロナルド・ドーアが書いた「ホンモノの民主主義とは」という論説が紹介されたメールが届いていた。ネ

ットで探すもみつからなかったので、中日新聞で働いているゼミの卒業生に連絡をして、今朝、送ってもらった――どうもな、みっちょん@６期。

ということで、その内容の紹介。

ドーア氏曰く

政権交代して、政策面で大きな変化が来るだろうか。規制撤廃・競争激化を目指すか、規制によって分配秩序を維持するかという次元でも、民営対国営の次元でも、対中外交の次元でも、**自民党政権から民主党政権への移行よりも、小泉・安倍時代から福田・麻生時代への自民党政権のシフトの方が大きかったと将来の歴史家が判断するかもしれない。**

所得再分配機能を本格的に見直すという点でも、さほど原理的な転換をもたらしそうもない。･･･例えば、不景気で生活保護以外に税損の道が増えていくのに、鳩山由紀夫首相の５２分間の所信表明には、「働くこと」の哲学など長々と述べられていたのだが、「失業」や「雇用」については具体性に乏しい印象だ。

「ホンモノの民主主義」という政体はない。同じ２大政党制でも、米国と、英国との違いは大きい。米国は官僚の存在感が薄い、本格的に政治主導の国だ。**英国では、選挙勝利を第一目標とする政治家より優秀な官僚が、国益を考える貴重な国家財産であるという超党派的なコンセンサスがある。**

まぁ、コメントはありません。付け加えるとすれば、昨日の講演後の居酒屋での懇親会で僕が話したことかな。つまり、「イギリスの政治家は優秀な人間がなるし、よく勉強する」ということ。このあたりは、先月の『文藝春秋』でうまく表現されていたので紹介しておきます。

中西輝正「民主党のお手本　英国政権交代、失敗の教訓」『文藝春秋』2009 年 11 月号

〔民主党が〕モデルとしてイギリスを選んだところに、英国政治史を学んだ私は少なからぬ危惧を覚えざるを得ない。

･･･

さらに人材調達のシステムも、下院議員の社会的評価も隔絶したものがある。イギリスでは極端にいえば、**最優秀の学生は、大学卒業時にすでに「保守党に行くか」、「労働党に行くか」が決まっている。そして、二番手、三番手の、政治家になれなかった者が学者になったり、官僚になったりするのである。**イギリスでは「影の内閣」に入る政治家といえば、各自の専門においてその分野の学者を優に凌駕するだけの知識、見識を要求される。政治家もそれに応えるべく何十年と勉強を重ねる。所管の行政分野に関して年に数本の学術論文や著書を出版している議員はごく普通

に存在している。

日本の政治がいきなりイギリスを手本にするのは、軍事力で譬えるならば、今の自衛隊が、いきなり米軍並みの装備や運用を目指すようなものだといっていい。

昨日、居酒屋から駅まで送ってくれた議員は、とてもよく勉強されていた。聞くところによると、もう 5 年も前に、僕の本を読んで、Amazon にレビューを書いてくれていた人だったらしい。次の印象的なレビュー、もちろん覚えています。

> 慶応の先生にも市場主義万能でない先生がいるんだなと実感させた本。むずかしいことを極めて平易に書いているその筆力に脱帽。ことしトップテンに入る本。福祉や年金をまじめに考えたいと思っている人は是非読むべき。

レビューには励まされるものです。ありがとうございます。

そして、お別れの際に言いましたように、とにかく政治家の人たちは勉強してください。わたくしが政治家に言いたいことは、ほんとうにそれだけです。

昨日は全政党を相手として話すという愉快な機会を準備してくださいまして、ありがとうございました――２度と呼ばれないだろうけどね（笑）。

関連文章

勿凝学問 262　社会保障政策に関する国民負担率決定論の検証過程――「真っ逆さーまーにぃー堕ちてディザイアー♪」という将来予測は、いかなる根拠に基づくのか？

ちなみに、僕が講演に出かける前に課していた課題

> 2009/10/28 (水) 12:56
>
> まぁ、とにかく予習をしていただいて、みなさんの質問に答えるというのがベストかと思います。
>
> **細野真宏『未納が増えると年金が破綻するって誰が言った?』と私の『社会保障の政策転換――再分配政策の政治経済学Ｖ』『医療政策は選挙で変える――再分配政策の政治経済学Ⅳ』は、必ず予習をしておいてください。**
>
> **週刊東洋経済の『年金激震』『税金超入門』を、本社から取り寄せて予習をしておいてください。**
>
> それと
>
> ２つの国民――日本人の少数派と多数派

経済成長と医療政策のあり方――日医の医療政策会議による諮問報告書の草稿
小選挙区とは一神教だよ
銭湯権を危険にさらして――新報道 2001 スタッフへの礼状

http://www.kenjoh.com/　をお気に入りにいれて、アップされている文章を読み込んでおいてください。